

市民活動団体と鎌倉市による協働事業  
平成24年度実施分

事業評価

鎌倉市協働事業選考委員会

## 平成24年度に実施された協働事業の事業評価

### 《概要》

平成25年5月20日(月)午後2時から、鎌倉市役所全員協議会室において「市民活動団体と鎌倉市による協働事業実施報告会」(平成24年度実施分)を開催し、協働した団体及び担当課から各事業の結果報告が行われました。

その報告を受け、同日午後3時35分から「鎌倉市協働事業選考委員会」を開催し、それぞれの事業評価を行いました。

委員会における事業評価の内容は以下のとおりです。

なお、評価を行った委員会の委員は次のとおりです。

### 《鎌倉市協働事業選考委員会 委員》

委員長	志村 直愛	東北芸術工科大学	教授
副委員長	土屋 真美子	特定非営利活動法人	アクションポート横浜 理事
委員	渡邊 公子	特定非営利活動法人	鎌倉市市民活動センター運営 会議 理事長
委員	田畑 秀敏	公募	
委員	梅澤 正治	鎌倉市市民活動部	部長

### 《実施事業》

- 1 認知症相談事業 (2カ年実施) 2P
- 2 障害者就労支援員(ジョブサポーター)養成・派遣事業 (2カ年実施) 3P

# 1 認知症相談事業

## ★評価の高かった点

- ・ 1年目の課題が改善され、利用者が増えてきた。
- ・ 枠の中で進んできた事業が多い中で、平成25年度は相談事業だけでなく、啓発についても予算が増えたことはすごい進歩だ。
- ・ 市民活動団体の特性を生かし、相談者に対し丁寧な関係性を持っている。
- ・ ニーズに合った事業である。

## ★評価の低かった点

- ・ 成果が具体的でないため分かりにくい。報告に具体的事例を示すと分かりやすい。
- ・ 前年度の報告に対するフィードバックが反映されていない。
- ・ 相談件数が1回1件という月があり、実質的な活動が少ない。
- ・ PRや他機関との連携が見受けられない。

## ★今後に向けての課題点

- ・ 地域に委ねていくための仕組み作りが必要である。
- ・ 相談窓口を持っている担当課とNPOなど市民活動団体が話し合う機会を考えてみてはどうか。
- ・ アンケートの設問「今回の相談でおおよその解決の道筋ができましたか」で、「ある程度ついた」という回答が17件あり、やはり道筋をつけるのは難しいのだろう。その難しさがどこにあって、どう解決をすれば次に生かせるかという指針が出せるとよい。
- ・ いろいろな機関・団体とネットワークを組んで連携をどうするかという課題について、平成25年度の成果として出してもらいたい。認知症についてグランドデザインが描ければよい。
- ・ 地域とつながるコーディネーターを養成したらどうか。

## 《総体的な評価》

悩みを聴くことで気持ちの整理、負担の軽減も図ることができ重要な取り組みである。利用者の増加と啓発にかかる予算が付いたことは評価に値する。

前回の事業評価にもあるように他機関等と連携を図り、支援が必要な人に対して、次にどんなことをすべきかを市民目線で社会や市民に対し提案することも必要である。

## 2 障害者就労支援員（ジョブサポーター）養成・派遣事業

### ★評価の高かった点

- ・報告で具体的な成果の事例があったのが良い。
- ・現場主義に徹している。
- ・市と団体が互いによく協力し合っている。

### ★評価の低かった点

- ・年齢など対象が異なる市民活動団体と連携が取ればよい。
- ・報告に活動状況はあるが、誰がどれだけやっているか分からない。

### ★今後に向けての課題点

- ・報告の際に、成果をプロデュースするような協力者がいると見せ方が変わってくる。
- ・対象を知的障害のみでなく、発達障害まで広げられるとよい。
- ・人任せにしていない姿勢をもっとPRするべきである。

### 《総合的な評価》

時間をかけて事業の対象者(サービスの受け手)に寄り添った活動をしている。

定着に向けての就労支援は先進事例になる。企業に会員になってもらうなどすればさらに事業が広がる可能性がある。

今後に向け、この協働事業を基にした新しい仕組みが構築されることを期待する。